



正六位勲四等關澤明清

特旨ヲ以テ位一級被進

正六位勲四等關澤明清

叙從五位

右謹テ奏ス

明治三十年一月七日

内

閣

内閣總理大臣伯爵松方正義

二



8

農

二

一月七日裁可一月七日達

明治三十年一月六日

内閣書記官



内閣總理大臣

内閣書記官長

正六位勲四等関澤明清ハ明治五年六等出仕
 出身以來諸官ニ歴任シ廿五年退官以來本邦
 水産事業發達ヲ企圖シ銳意熱心爲メ公
 私ノ事業創啓スル所サナカラス我邦水産上
 其功績特ニ顯著ナリトス目下病氣危篤之趣
 ニ付農商務大臣奏請ノ通特旨ヲ以テ位一級
 被進從五位ニ被叙然ルベシ

内閣

水産調査會委員第二回水産博覽會評
議負正六位勲四等閔澤明清義出身
以來教官職ヲ歴奉シ勤勞甚カラズ就
中明治廿五年農商務二等技師退官後
三第回内國勸業博覽會審査官水産
調査會委員第二回水産博覽會評議
負等ト為リテ其職ニ執掌シ功勞頗ル
大ナルノミララス 夙ニ銳意熱心本邦水産
事業ノ發達ヲ企圖シ明治八年米國

農商務省

費府博覽會事務局ヲ以テ同國ニ航スル
ヤ親シク彼地養魚及漁業ノ實況ヲ視
察シ歸朝ノ後養魚人工敝化等ノ事業
ヲ創始シ同十五年大日本水産會創立
以來ニ常ニ其幹事トシテ同會ノ為メ大ニ
計畫施設スル所アリ殊ニ當時本邦未ダ
水産ニ関スル學校ヲ設ケアラザレバ為メ水
産ノ改良ヲ普及スルノ途ヲキテ憂ヒ率
先シテ水産傳習所創設ノ事ニ尽力シ
其所長ト為リテ所務ヲ整理シ地方水産

ノ實業者ヲ養成セシコト甚カラズ又伊
 豆大島近海鯨族ノ来游甚ク多キモ之
 ヲ捕獲スルモノナキヲ以テ西洋捕鯨法
 ニ依リ捕鯨銃及爆發銃ヲ使用スルノ
 必要ヲ認メ在官中日本水産會社ノ
 事業ヲ監督シテ其試驗ヲ為サンメニモ
 未ダ經驗ナキノ事業ヤレルヲ以テ其知ヲ
 奏スル能ハサリシカ退官後躬ラ該事業
 ニ從事シ多年ノ經驗ヲ積ミ遂ニ大島
 沖洋中捕鯨業ヲ起シ其成績良好ナ
 ルカ為メ他ノ獵業者モ亦之ニ則トルモノ
 漸ク多キニ至レリ殊ニ金華山沖抹香
 鯨ノ来游極メテ多キモ邦人ノ之レカ獵業
 ニ從事スルモノナキヲ以テ二十七年四月當
 省ノ囑托ヲ受テ該獵場ヲ探查シテ抹香
 鯨ニ頭ヲ捕獵セリ是ヲ本邦ニ於テ洋上
 抹香鯨ヲ捕獵スルノ嚆矢トス其後宮城
 縣等ニ於テ捕鯨會社ヲ創設セルモノアル
 ニ至レルハ畢竟同人カ率先シテ模範ヲ
 示シタルノ致ス所ニ外ヤラズトス又明治二

十六年外務省、囑托ヲ受ケ朝鮮海漁
場探檢ノ為、同國ニ航シ各道ノ沿海ヲ
視察シテ詳細ニ其狀況ヲ報告シ僞テ全
山水産會社ノ事業ヲ監督セリ而シテ同
年水産調査會ノ開設セラレ、ヤ或ハ臨
時委員ト為リ或ハ正委員ト為リ鞠躬其
任務ヲ尽シ切實極メテ顯著ナリトス之ヲ
要スレニ同人ハ本邦水産事業ノ為、括
据經營スルコト二十有餘年間一日、如ク
其間或ハ高業者ヲ誘導シテ漁船漁網
ノ改良ヲ命ラレシ或ハ磯辺ノ漁業ヲ進メテ
遠洋漁業ヲ遠セシムルノ途ヲ講スル等
其公益ヲ興シ國利ヲ進ムルノ切實ニ鮮
斯ナラス然レニ同人ハ近日來疾病ニ罹リ
目下危篤ニ有之ニ付此際特別、御詮祇
ヲ以テ位一階ヲ進メラレ度履歴書ヲ添
別紙上費事進呈ス

明治三十年一月六日

農商務大臣子爵 榎本武揚



内閣總理大臣伯耆守正殿

農商務省

從五位

水産調査会委員
第二回水産博覧会評議員

正六位勲四等 関澤明清

右ハ多年數官職ヲ歴奉シ且本邦水産事

業ニ関シ功勞尠カラサルニ依リ前記ノ通特ニ

叙位セラレンコトヲ謹テ奏ス

明治三十年一月六日

農商務大臣子爵榎本武揚



農商務省

関沢明清

氏名

関沢明清

旧藩 加州金沢藩
旧氏名 孝三郎

府縣 東京府士族

生年 天保十三年二月十日

産地 和賀国金沢市小立町七丁目

年号 明治五年九月九日

官記 辭令及其他事故

資

格

官 太政官

明治五年九月九日

正院六等出仕被仰付理事

太政官

澳國博覧会御用掛被

仰付候事

全

事務官被仰付澳國一

等差遣候事

七年一月廿日

澳國博覧会一級事務官

被仰付候事

全

八月廿日

帰朝

八年二月廿日

米國博覧会事務取扱

農商務省

申付矣事

三月三日 神勳業察大等出仕

大政官

米國博覧会御用掛被

仰付矣事

内務省

澳國陸務取扱被仰付

矣事

全

米國博覧会事務官

被仰付矣事

大政官

御用省之米國一被遣

矣事

全

十年一月十日 勳業察被察

十日 内務省御用掛申付月

俸百圓給與矣事

但取扱準奏任

内務省

十五日 勳業向事始取扱申付

矣事

全

七月三日 勳業向事始取扱事務

申付月俸八拾圓給與矣

事

十年 育廿八 明治勳章五等ニ叙シ

双旭日章ヲ科受ス

十年 育廿八 澳方利國皇帝陛下ヨリ

フランシスコヨリセフリワテル

クロイワ勳章ヲ受領

シ及ニ佩用ヲ許サレ

九月十日 月俸八拾圓給與矣事

改拾日増加支事

十二年三月九日水産課長魚新中付

支事

十四日 内閣勸業博覧會審

査官波 仰付支事

十四年四月七日

勸農局長

十日

農商務省御用掛波

仰付取扱洋奉任支事

農務局長中付支事

付支事

七月十二日 月俸支正百圓給與

支事支正百圓増加支事

八月十日 博覧會掛章中付支事

勸農局長

支官

農商務省

令

令

令

但水産博覧會事務
取扱支事

八月廿日 第二回内閣勸業博覧

會審査支事給與勸

二付為其賞銅牌一個

下賜支事

第二回内閣勸業博覧

會審査支事給與勸

二付為慰勞金廿圓下賜支事

十四年十月六日

獨逸國柏林府萬國漁業

博覧會事務格別勸

二付為慰勞金廿圓

農商務省

令

支官

十五年三月八日任農商部少書記官

大政官

青月一日叙從六位

九月一日札幌農學校及附屬校

園事主任兼務中

付任事

農務局
大政官

青月廿日任駒場農學校校長

青月廿日明治七年十二月申鶴魁

二羽及白魚三尾持物使

一缺納交後奇持任事

青月廿日水産博覧会出品及審

査科長中付任事

農務局
大政官

十六年一月廿日水産博覧会審査部長

申付任事

令

三月十日免兼駒場農學校校長

大政官

青月廿日水産局次長心得使仰

付任事

農務局
内閣

十九年二月廿日任農商部少技師

四級月俸下賜

青月廿日水産局勤務使仰付

任事

農務局
内閣

青月廿日任農商部三等技師

叙奏任官三等

上級月俸下賜

水産局勤務使仰付

農務局
令

廿二年九月廿日東京農林學校農学部

別科中水産專修科

教授勲ヲ命ス

廿二年十月九日日本帝國憲法公布

記念章拜受

廿二年三月四日第三回内閣勲業博覧會

審査官被仰付

三月廿四日第四部勤務ヲ命ス

七月一日明治十八年措大布一反

博物館、館員交換奇

將ニ交事

七月二日任農商務二等技師

叙任官二等

下級澤下賜

七月廿日農務局第四課長並勲

全

賞勲局

博覧會
事務局

賞勲局

内閣

全

農務局

全

甲命ス

十月廿日博覧會事務局別勲

二付共賞トシテ金九

拾圓下賜

廿三年七月一日第三回内閣勲業博覧會

審査官被免

藍後袋章拜受

十月廿日佐藤農務局次長兼

着テテ農務局次長

心得ヲ命ス

廿四年三月廿日農學科乙科水産科生

徒美習報告書査見

考賜授賞ニ付報酬トシテ

全

博覧會
事務局

内閣

賞勲局

農務局

金拾圓交付

八月廿日 中級課下賜

十月廿日 課外課下賜

課務取扱下命

十月廿日 課務取扱下命

十月廿日 帝國博物館 活體一

頭献納 支取券特許

十月廿日 外四高等中學校創立

費下 金七拾五圓寄

附支取券特許 為其

費未 金一個下賜

十月廿日 依願免本官

十月廿日 朝鮮國漁業取納 下賜

農科大學

農商務省

令

令

文部省

内閣

托

十月廿日 金八百圓給

十月廿日

十月廿日 水産調査委員会

十月廿日 特許 以下一級

十月廿日 叙正六位

十月廿日

十月廿日 依願水産調査委員

十月廿日 依願時委免

十月廿日 分四回内閣勅諭

十月廿日 會審書取扱

十月廿日 第四部勅諭

十月廿日 京都府向出所

外務省

令

内閣

文部省

内閣

令

出張命令

青森水産調査会委員被

仰付

廿九年二月二日 銀牌

審査事務に勉勵せしめ

賞し茲之ヲ授ふ

三月九日 審査事務特別勉勵

二付金六拾五圓

四月九日 明治廿八年四月内閣

勅諭博覧会審査委員

ト爲り 周到綿密ニ

強努ニ服し 甚ク勞勩

ナリテ 殊ニ賞給ス

内閣

内閣

内閣

廿九年

十一月十四日

青森水産調査会

青森水産調査会

青森水産調査会

青森水産調査会

青森水産調査会

三月九日 青森水産調査会

出張命令

六月八日 青森水産博覧会

審査事務

